

SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No.8

昭和63年3月31日



南海電鉄浜寺公園駅

SADA新春の卓話と懇親の集い

去る1月22日恒例のSADA新年懇親会がホテル・リバティープラザ、ゴールドルームにて開催された。

当日は、ゲストに(社)日本フラワーデザイナー協会副理事長 内山ゆり先生をお迎えして、「花と私のかかわり合い」をテーマに卓話とデモンストレーションの数々が披露され、出席者はすっかりフラワーデザインの華やかなショーに魅了された。続く懇親の小宴ではフラワーデザインのご婦人方も多数参加されて一層華やかに盛り上がり、飛び入りで田中市長も出席され、スピーチをいただくなど、沢山の趣向に楽しい新春のひと時を過ごし8時過ぎ散会した。

■「私と花のかかわり合い」 卓話要旨



街でいろいろなウインドウなどにお花が飾ってあるのがお目にとまると思いますが、それらを大きく分けると、大きく3種類に分れるんじゃないかと思えます。

いろいろな花がいっぱい入っているのを、デコレーション的、デコラティブな世界と呼んでおります。人間も色々な面を持った人をデコラティブな人と悪口を言いますが……。

もうひとつはヴェグタティブというか、非常に自然調な自然のお庭をそのままに、風景とキチンと植生を合せて生けているお花をそのように申しております。

それからもう一つはグラフィッシュ-グラフィック的なものがあります。これが問題でありまして、いくらチャレンジしても思うようにならなかった時代がありました。当協会の若手のデザイナーに言わせると、グラフィッシュなデザインというものには年齢制限があるのではないかということですが、私はそんなものはないと反発してただ今はグラフィックな世界に没頭しているところでございます。

どういふことをしても、何を持って来ても、お花でない

ものと取り合せてもそれが感性として美しければいいと思うのですが、その最後の美しければいいというところにひっかかって苦しんでいるわけでございます。

私共の世界は生花の世界とは違いますけれども、お花を生けるという分野では最後には区別がつかないくらいの接点があると思えます。おしゃれ用の花がありますが、胸につけたり、頭につけたり、ウェディングの時に花嫁さんが持つ花束とか、そういうものが生け花にない分野で、あとはお花を生けるということに関しては流儀によって呼び名の違いこそあれ、それ以外は全く同じだと思います。

日本にもいっぱいの花材がありますけれども、アメリカで勉強してまいりますと、アメリカの花材ばかりさがして発表して行くようになります。でも日本の土地に定着した花材がもっと使えるんじゃないかということに気がついて来ている段階だと思います。

と言いながら今日私が用意いたしました花の中で約半分はヨーロッパの花-オランダの花-でございます。ヨーロッパをご旅行される時はアムステルダムからちょっと足をのばして、バスでアールスメーヤーという世界一大きな花市場を見学することをおすすめいたします。

日本にも沢山のヨーロッパの花が入っております。アメリカからも一部グリーンのものが入っておりますけれども、すばらしいのは、日本人にない感覚の色の花がいっぱい輸入されて人気を集めているところだと思います。

日本ではデザイナーだけが勉強して上の方に行ってしまうと、花を売る市場さんの勉強ができていません。又、花を作る人達が安全にもうかる花しか作っていないものですから、さてヨーロッパのこういうデザインをやろうと思っても市場をウロウロしてもほしい花がないのです。そんな花を作っても売れないから作らないという返事が帰ってくるばかりです。

三者が一体となっていないので私達フラワーデザイナーはむずかしい花ばかり注文するから困る人達だということになっているようです。手取り早いところで、輸入のヨーロッパの花の方を買ってしまうということになるわけです。



今、自分として凝っておりますのは、お花の上に、又お花があって、お花を重ねて行くことができないのかということなんです。

今この花をどけますと、重いものが重なって例をつくっている、こういう構成がはや

っております。タテ縞とかヨコ縞というのではなく、グループを作って、花のかたまりで表現して行く、これは花の一番いる方法なんです、その上にフワッと何かかぶさったものがあつたら、というのが私の今日のテーマでございます。

ドイツにはトレンド委員会というのがありまして、毎年建築デザイナー、ファッションデザイナーなど各分野のデザイナーの代表が集って今年のトレンドというものを研究いたします。テーマが決まりまして発表が2月15日です。今年のテーマ（1987年の傾向ですが）は アップフリーゼントと申しまして、流れるように、かろやかに、という意味でございます。発表会の時には、お花をつくる生産者の方も、市場の方も、花屋さんもデザイナーも、皆な見に来ますので、あ、今年はこういうものを創ればいいんだと、とてもいい循環になっているのです。模索でやっているのではなく、お花屋さんもことしのトレンドはこれだということでお店を活性化しよう。結婚式にはこういうものがテーブルの花にいいんじゃないか、と決まってくるのです。非常に効率よくさすがドイツ人という感じでやっております。

次は年増はできないんだと言われましたグラフィッシェグラフィック的なものを表現してみたいと思います。今度は花の数も少なく、シャープにでき上がるはずで、デコラティブな世界とは全く反対な簡素化された作品になると思います。

デモンストレーションが成功するかしないかはコメンテーター（解説する人）とのイキが合うかどうかにかかっています。コメンテーターはデザイナー以上にものがよく

わかっていなくてはなりません。デザイナーがやろうとしていることを間違えて説明してしまうと、とんでもないことになってしまいます。だいたいオシャベリサンがちゃんと説明をして、デザイナーはただ黙ってお花をつくっている—それで成功するかしないかはコメンテーターの話術にかかっているのです。沈黙でデザイナーだけがやっておりますと、非常に退屈な時間になってしまいます。

かなり想像と現実が違うようでございますが、これはグラフィッシェの世界でございます。この中でなんとなく、平行線が入っておりますので、専門用語でパラレルのグラフィッシュという呼び方をしております。交叉しているところがあるじゃないと言われるかもしれませんが、これは技術がヘタなことと題す時にねじれてしまったこともありまして完全に平行になっておりません。

ドイツ人はい、ことを言ってくれました。51%以上のものが平行になっていたらいい、のですと。50%と言わないところがドイツ人だと思いましたが、私達だけなら半分ぐらいはパラレルになってほしいと言っただろうと思いますが、はっきり51%以上平行線になれば、自然のものなんだからいいんだということを言ってくれたのです。

枝ものでも、裏枝を使つてはいけなとか、そういう言い方はいたしません。枝ものがウソをつかないように生けなさい、とすばらしい言葉を残してくれました。うらがえしに生けてはいけなということなんです、通訳の通訳がよかったんだと思いますが、ヒト言、ヒト言が勉強になる昨今でございます。

（文責 山崎）



パーティーで挨拶される飛入りの田中・堺市長。
中央後方は内山先生のグラフィッシェな方の作品。

「知ってますか？堺のまち、近代建築を見る会」

(SADA事業報告)

11月14日、土曜日の午後、南海高野線百舌鳥八幡駅に集合、ややバスの到着が遅れたものの、SADA会員14名の参加をみた。

堺市立工業高等学校教諭で、明治建築研究会代表の柴田正己先生の案内で、駅近くの“是枝邸”からこの見学会が始まった。

(見学場所)

①是枝邸～②旧天王貯水池跡～③大阪刑務所～④旧丹治煉瓦製造所跡～⑤浜寺公園駅舎～⑥旧堺灯台～⑦旧堺港(南台場跡、堺火力発電所)

途中、大阪刑務所では、写真撮影をめぐるのハプニングがあったり、浜寺公園駅舎付近では、小雨に降られながらも無事、4時半頃、堺東駅に到着、改めて、明治建築の素晴らしさを感じた半日であった。

後、駅前の料理店“おから”(Eスポットで紹介)にてこの見学会にごいっしょした堺商工会議所、婦人経営研究会の方々と共に、柴田先生を囲んで、大いに語り、飲み、親睦を深めた。

■是枝邸 (医院)



かつてこの建物をとりまく環境は、大きな池のほとりに建ち、その外観は、西欧の城館を彷彿とさせるものがあった。現在では、その池も埋められ、周囲は住宅が密集して、当時の面影は見られない。

もともと建築に興味を持っていた先代是枝氏が、西欧の城の写真を参考にしながら、見よう見まねで図面に描いたものを、患者であった宮大工、村田元蔵氏がそのご恩返しにと情熱をかけて建て、昭和8年頃、完成したものである。

木造4階建てで、外観は擬石が貼られ、4面とも同じ立面になっている特異な雰囲気を持った建物である。

■旧天王貯水池跡

閑静な住宅の空地に、古ぼけてはいるが、ローマの凱旋門をおもわせる美しい煉瓦造が残っている。



明治36年の内国勸業博覧会第2会場の建設や、日露戦争後の好況などを反映して、堺に上水道建設の気運が始まり、同41年から着工、43年に完成したといわれている。

土盛りされ、上部は草でおおわれているが、内部には古代ローマの上水道を思わせる重厚で立派なトンネル型ヴォールト天井の10室の貯水槽が設けられている。

この近代上水道のモニュメントについては、地元住民、建築研究者の間から、保全再生への声が高まっている。

■大阪刑務所

大正7年、それまであった大阪市から現在地に移り着工され、昭和3年に完成、開所される。

いかめしい煉瓦造の外観もさることながら、内部の方も簡易化された合理的な設計がなされている。煉瓦の焼成からはじまり、工事の大部分までも素人の服役者の労働によらなければならないために、このようなシンプルな形になったのかもしれない。

現在、移転の計画もあり、博物館等ミュージアムとして残したい要望もある。



■旧丹治煉瓦製造所跡

大阪府下の民間煉瓦製造所としては最古のものである。建築年代はわからないが、内部を改装して今も居宅として大切に使われている。

又、この近くには当時のものと思われる煉瓦造倉庫や美しいアーチ型の煉瓦塀が残っており、明治の昔をしのばせている。



■浜寺公園駅舎

明治30年の開通当初の駅は、浜寺停車場と呼ばれ、切妻屋根の簡単なものであったが、同40年現在の駅舎に建て替えられ、名称も浜寺公園停車場と改称している。

外観はビクチャレスク風でハーフ・チンバーといわれる木造真壁造りで白色のしゅい壁と木部とのリズムカルな調和がとても美しい駅舎である。特に玄関ポーチの開放的なアーケードや、とっくり形の柱は鹿鳴館に用いられた柱を思わせるものがある。

現在、駅舎の物置に使用されている部屋の隅には、マントルピースがあり、炉口には装飾のついた金属製の立派な枠が残っており、この部屋が当時の一等待合室であったといわれている。

設計者については長い間、わからなかったが、数年前、辰野片岡建築事務所の設計である事がわかり、この駅舎をより有名なものとした。

※写真左から5人目が柴田先生



■旧堺灯台

我国に現存する木造洋式灯台としては最も古いものの1つで、昭和47年に国の史跡に指定されている。

明治9年に旧堺港が改修される時、それまでの灯明台をやめて新しい洋式灯台に建て替えられた。



堺住民の寄付によって建てられたこの瀟洒な六角形の白亜の灯台は、港の発展に大きな期待をよせた明治の堺人のエネルギーを、今に伝えている。

■旧堺港（南台場跡）

海軍奉行、勝海舟らの建議によって、幕末に大阪湾防備のために建設されたもので、我国に現存する数少ない貴重な台場跡である。

旧堺港をはさんで北側の台場は、完全に破壊されているが、南側（南台場）は、水族館、公会堂等のある大浜公園になっており、将来とも公園として保全されていくであろう。

■堺火力発電所

旧堺港の北側、現在は堺化学工業の構内に、重厚な煉瓦造建築が2棟残っている。これは南海鉄道の電車用、並びに一般家庭の電灯電力供給用として建設された火力発電所である。

旧堺港周辺整備計画（ウォーターフロント）の中で、資料館等として、保全再生を求める声がある。

以上、今回の見学場所を柴田先生の説明と、近代建築ガイドブック（関西編）鹿島出版会によりまとめてみました。

（田中賢次）

表紙の周辺

浜寺公園駅舎の外観を特徴づける“とっくり形の柱”。ふり返れば周辺の街は、何の衞いもなく明治の建築に同化していた。

堺市制100周年記念事業

先号 (No.7) では、昭和64年堺市制100周年記念事業として、事業基本計画概念図、イベント計画、シンボルマーク、キャラクターマーク、キャッチフレーズなどについてお知らせいたしましたが、今号でも引続き同事業のホットなニュースをお知らせいたします。

■国際交流博「ダッハらんど'89大阪」開催

堺市が市制100周年を迎える昭和64年は、わが国の西洋交流史上、最も長い歴史を持つ日本とオランダ両国の修好380周年にあたります。

これを契機に、政府と関係団体により多彩な記念事業が予定されています。大阪では、大阪府、大阪市、堺市、財大阪21世紀協会、関西日蘭協会などが中心となって、「オランダフェスティバル'89大阪実行委員会」を設立し、いろいろな記念事業を展開します。

このうち、大阪実行委員会のメイン事業が国際交流博「ダッハらんど'89大阪」です。この国際交流博は同時に堺市制100周年記念事業として位置づけられています。「ダッハらんど'89大阪」の開催概要は次のとおりです。

- 基本テーマ「ときめき・ひと・とき 国際交流新時代」
- 期間 昭和64年3月19日～5月21日 (64日間)
- 場所 堺市大仙公園一帯
- 会場構成 会場いっぱい、花、花、花で埋め尽くす壮大な花計画。「不可能を可能にしていく不思議な科学の世界」をベースにしたサイエンスファンタジー。過去、現在、未来の日本とオランダの体験ができるのはもちろん、いろいろなイベントなど、毎日が新鮮な驚きの連続です。また、そっくりそのままオランダの街角の再現をはじめ、オランダ料理のレストランも特設、会場まるごと「ときめき・ひと・とき 国際交流新時代」のテーマにふさわしい構成です。
- 未来ゾーン 日蘭テクノ最前線、サイエンスファンタジー
- 過去ゾーン 大航海のロマンに咲いた日蘭交流史
- 現在ゾーン 中世の香りそのままのオランダの街角

を再現

- イベントゾーン つぎつぎの楽しいイベントの連続

■入場料金

種別 区別	普通入場券	
	前売券	当日券
一般	1,000円	1,400円
シルバー 中・高校生	700円	1,000円
幼・小学生	400円	600円

※団体割引、障害者割引料金は別に決められております。

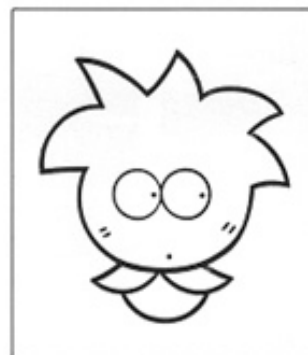
■「ダッハらんど'89大阪」のマスコットキャラクターが決定しました。

去る2月1日から2月29日に公募されました「ダッハらんど'89大阪」のマスコットキャラクターが決り、「ダッハちゃん」と命名されました。なお入選作品の選考には、堺デザイン協会より岡村篤さんと、崎田公明さんが代表で参加されました。

日本全国はもとより、オランダからも作品が集り、応募総数は1,239点にのほりました。そのうち堺市内からの応募は168点です。中には浜寺昭和小学校の「イラストクラブ」の子どもたちの作品もありました。

特にオランダでは、オランダ政府の協力で現地の新聞に大きく取り上げられ、話題を呼び216点の応募がありました。最優秀賞(ダッハ賞)と佳作入賞者は次の通りです。

- 最優秀賞「ダッハちゃん」(ダッハ賞) 鎌田 まゆ美
東京都世田ヶ谷区



オランダ語で「ダッハ」は「こんにちは」を意味することから、あいさつの手のしぐさのイメージと、オランダを代表する花、チューリップのイメージを、顔の形に表現した。

- 佳作 大松 弥生 大阪市天王寺区
棚橋 未央 アムステルダム市 (オランダ)
北川 治 三重県鈴鹿市 (敬称略)

- フレンドリー賞

数多いオランダからの応募に対して、その関心や、熱意を高く評価し「フレンドリー賞」を設け、成人、児童から作品各3点ずつを選び表彰します。

堺市新庁舎第1期工事实施設計完了

現在の本庁舎は昭和19年に現在地に建築され、その後5回にわたって増築を重ねて来たために、迷路のような複雑な構造となっている。さらに収容し切れない部局が周辺ビルに分散しており市民に対する迷惑が大きなものとなっている。市ではこのような本庁舎の現状から新庁舎の建築計画に着手し、一昨年に基本計画設計コンペを行い、このほどその第一期工事分の実施計画が完成された。基本設計は市が設計事務所7社を選定してコンペを実施、日本建築学会近畿支部に委託した審査委員会により審査され、武藤武夫設計事務所（東京都）の作品に決定された。

庁舎は二期に分けて建設。その第一期工事の実施計画が完了した。第一期工事は現庁舎の中庭に、地下4階、地上21階建ての高層棟で、1・2階が吹き抜けの市民ロビー、地下が公用車駐車場、倉庫、機械、電気室などとなっている。

21階の展望ロビーは約88メートルの高さで展示コーナーとしての利用ができるほか、喫茶コーナーも設ける。仁徳陵をはじめ、市内を一望に出来るほか、晴れた日には淡路島が眺望できそう。

オフィスオートメーション時代に備えて、OA機器など使いやすい工夫をこらしている。熱線反射ガラスの窓や、窓際の照明を自動的に調節するシステムを採用したほか、ガスエンジン発電機を設置し、その排熱を空調・給湯に利用する他、電力の一部を賄うなど、省エネ設計となっている。

埋蔵文化財調査を終えたあと、市制100年となる64年度完成を目指して、第1期工事の建設に着手する予定。

2期工事については、基本設計では、新しい庁舎の南側に11階建ての施設を想定。延べ約3万5千平方メートルの建物に市議会や市民ホールなどを盛り込んでいる。現在の庁舎は第1期工事が完成しても併用するが、第2期工事が終ると取り壊す。跡地は市民広場など公園的な機能を持った空間につくりかえる構想。

又、300分の1の模型（写真）を本庁2階ロビーに展示している。概要説明パンフレットも用意されている。

- 建築概要（第1期工事）
- 工期 昭和62年度～64年度
- 面積 敷地面積 14,443.18㎡
建築面積 1,066.22㎡
延面積 25,990.11㎡
- 階数 地下4階 地上21階 塔屋2階
- 高さ 最高軒高 84.6m 最高部高さ 94.6m
- 構造 地下 鉄骨鉄筋コンクリート造
地上 鉄骨造
- 地下駐車場 56台（公用車専用）



完成後の堺東方面からの眺望。手前高層部分が第1期工事部分。

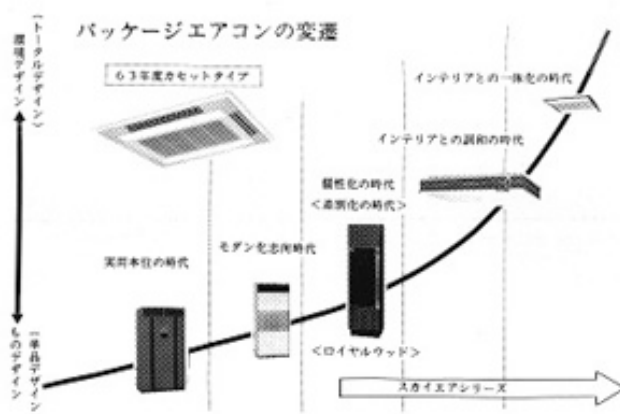
企業が創る

店舗・オフィスエアコン〈スカイエアシリーズ〉

ダイキン工業株式会社

“とりあえず部屋を冷やせば良い”という時代から、“モダン化指向デザイン”の時代をへて、エアコンにも個性やインテリア性が求められるようになった昭和54年、当社では〈スカイエア〉という愛称で店舗・オフィス向のエアコンを発売しました。

当時のスカイエアのデザインはエアコンの世界にインパクトを与えたいと言う考えから〈ロイヤルウッド〉という個性の強いデザインを採用しました。その後、床から壁へ壁から天井へと省スペース性の追求に伴い、エアコンを取り付ける場の変化に合わせ、デザインも大きく変わってきました。床置中心の時代は強い主張をもった“個性”が求められましたが、むしろ、“調和”や“一体化”の時代に入ってきました。当社でも「店舗のインテリアデザインに溶け込むエアコンデザイン」「創造力を発揮できるオフィスインテ



リアにもマッチするデザイン」を狙いとして、調和性と個性のグッドバランスをもったデザインにまとめました。

今後ますます多様化する店舗インテリアやインテリジェント化の進むオフィスインテリアにどのように調和させていくか？私たちデザイングループは〈スカイエア〉の新しい方向性の追求という大きな目標に向かって頑張っています。

(中井公一)

ズームアップ

堺の風車

山崎 晶



阪堺線、東湊駅から西へ約300メートルほど歩いたところで、少々注意をはたらかせてキョロキョロするか、そこいらの住人とおぼしき何人かに聞いてみると、すぐ発

見できる。楠町3丁2。大正期の建設になる木造の風車で、大きいのと、小さいのと、2ヶ存在している。浜風を受けて羽根が回るとピストンがポンプを動かして、地下水をくみ上げる仕組みになっていて、使われている数少ない風車である……と近代建築のガイドブックにあるけれど、動かすとすぐバラバラになってしまいそうで、とても役に立っていないような風情ではない。以前は同様の風車が数多く突立っていて、風を受けてはクルクル回っていたそうだが、現在残っているのはこの2コ。周囲はマンションやアパートが建ち並んで風車をすっかりとり囲んでしまい、風車のある風景—といった趣きは更々がない。近く何処かへ移されて博物館の陳列品の価値を高めることになるとも聞く。

堺・今・昔

堺織通とコンピュータ グラフィック 老 健一



堺織通は手織り敷物として最高級であると評価されてきた。明治の頃は大阪府の輸出の花形として、製造戸数三千軒、働く人は二万数千人にも達していた。

昭和30年代でも堺の敷物は輸出ブームを迎え、堺港から積出される輸出品のトップを飾ったという。(堺の伝

統産業、堺市経済局工業課刊) この手織り織通も昭和六十三年の現在、深井に在住の辻林白峰さんただ一人という。辻林さんは80才を超える高齢であり、この技術の伝承が急がれるのである。堺織通がここへ来るまでには、時の流れとともに幾多の波乱があり、アメリカの販売提携業者メー

ソン氏に依頼して、英・仏にも販売されたが、製品の粗悪化や(染料に酸類を入れて一時的に鮮明な色調になるが、時間の経過とともにボロボロになり使用に耐えなくなる)。アメリカで15割の関税引き上げなどで、衰退の途をたどった。(前掲書より)、さらに機械織りの設備が普及して、手織り織通の採算悪化により現状になったといえる。21世紀を目前にして世はあげてハイテクノロジーである。若い世代の好みも、多様化、個性化で、しかも高級品指向のインテリアに、向おうとしているとき、新しいデザインを採り入れた織通を開発し、伝統の技術を伝えたいものである、CGといわれるコンピュータが描いたデザインを例としてあげておく。(図 左上)



辻林白峰さん

E-スポット

新にっぽん料理+ワイン「おから」 崎田公明



今や質の時代といわれる。良質なものはほとんどいい評価を受け又多くの人々もそれを待ち望み選ばれていく。

こんな中で新しくオープンした店がこのたび堺東の中瓦町、泉陽信用金庫裏にお目見えした和風料理の“おから”である。

堺には良いものを見分け、又それを期待する人達が必ず潜在していると店主 新井直次さんは断言する。いい雰囲気

の中でおいしい料理を安く提供するをモットーに昨年4月にオープンさせた。地下一階地上三階のこのお店は気心の合った人や数人のグループで利用するには最適。40%厚の鋼製扉を押し開いて入ると黒御影石とグレーを基調色にした室内が広がる。黒いハイバックの椅子に腰を降すと次々と一流のシェフの手になる料理がダウンライトのスポットライトを浴びるように目前に現われる。魚も新鮮で美味しい。そして一通り食べ終わってもこの料金は安い。聞けば煮物、蒸し物、焼き物が250円から3000円まで又ランチタイムは“おから弁当”等600円から1000円まで。ぜひ一度利用してみてください。但し平常は午前11時半から午後2時まで。夕方は5時から午後11時まで。日曜日、祭日は午後4時より午後11時まで。更に毎月第一、第三月曜日は定休日。堺市中瓦町1丁59-4 TEL-0722-23-7070

大阪デザイン コンサルティング・システムを担当して

金子誠之助

「大阪デザインセンターが昨年6月から上記のシステムを発足させた。内容を案内状から抜粋すると、
「大阪の中小企業とデザイン事業所を結び産業各分野の商品開発とデザインの向上を促進するための、新しいシステムです。円高、消費の多様化など経済環境が激動するなかで、各企業はハードからソフトへの構造の変化に迫られています。そうした環境下において、優れた企業の多くが商品開発に、C.I.に、デザインシステムを導入して成功を手に行っている例はよく知られています。中小企業においても、今やデザインは重要な経営資源のひとつです。」

と述べられ、大阪府、大阪市、大阪商工会議所の積極的なバックアップの下に発足したシステムです。

内容はプロダクト、コミュニケーション、スペースの各デザイン分野からなり、それぞれに担当アドバイザーが専任でおり、1週間に1日だけ大阪デザインセンターに出向しコンサルタントに当たっています。小生はスペースデザイン分野を担当し、建築、インテリア、商環境、店舗等の相談を受けています。9ヶ月が過ぎた今、3分野合計ではかなりの数の業者の方が相談に見えており、又デザインに悩んでおられる状態がわかりました。堺、泉州の業者の方も来ておられますので賛助会員の皆様も是非ご利用の程を!! 又デザイナーの方は登録をお願いします。



博多よりSADAの皆様へ

坂下順二

60年春、大阪より福岡へ転勤しまして、早くも3年が過ぎました。その間、SADAの皆様のご配慮により、スリーピングメンバーという彩にさせていただき、毎号のSADAニュースにて、活動内容をいつもなつかしく、拝見しております。

SADAの活動も軌道に乗り、メンバー、企画共、私がお大阪におりました時より一層充実してきた様に感じられます。

一方、私の方は、高島屋の福岡事業所・設計室にて、ホテル、店舗等のインテリアデザインを担当しております、多忙な毎日をお過ごしております。

沖縄から鹿児島、熊本等九州全域を6人の設計スタッフにてカバーしております関係上、ハードなスケジュールと、出張の連続する日々です。

福岡へ転勤する以前、大阪から九州を見ていた時は、ずいぶん田舎で、情報量も東京・大阪に比べると、大きなハンディがある様な印象をもっていたのですが、実際に福岡にて業務を始めると、豊富な情報量と、東京・大阪に劣らない仕事のグレードの高さにおどろかされております。文字通り、「地方の時代」を身をもって感じている次第です。

福岡地区においては、来年3月に開催される「アジア太平洋博覧会」(よかとピア)に向けて、関連施設の計画が、大がかりに進んでおり、街自体がそれらの影響を受け、活気にあふれております。

ホテル、大型商業施設、ウォーターフロント計画も市内において目白押しで、色々な面で博覧会の波及効果が顕著に現れている様です。

当然、私達の仕事も、今以上に多忙を極めるであろう事は明らかで、その時の対応に今から頭をいためている所です。

また、アジア太平洋博の詳細については、紙面を変えて、チャンスがあればレポートしたいと考えております。

とにかく、博多は今、エキサイティングです。

色々な新しい動きにあふれております。ぜひ機会があれば、一度博多へお越し下さい。

それでは最後に、SADAの皆様のご健康とご活躍を、お祈りいたしております。

昭和63年3月6日

韓国での仕事など

安永一典



最近TVで韓国が紹介される機会が多いように思う。

大体は韓国のグルメツアーの様なものを中心に、焼肉、キムチ、ビビンバ等の紹介が多い。又、付録的にチマ

チョゴリや一部の繁華街、若者達のインタビューというパターンでお茶を濁している。TVが決して、総て重厚で本質的なものでなければならない、とは思はないが、どの番組も大差ないのはどうしたものだろう？これは韓国に限らず、ASEAN諸国に共通している様に思える。一つには過去に対する贖罪意識が編集スタッフにあって、あまり深く取材をすれば深刻にならざるを得ない、ということや、取材に十分な日数と予算をかけず、結局は「韓国良いとこ一度はおいで」式の、良い処、良い人紹介の甘口番組になっているのではないだろうか。たかがTV位で目を三角にすることもないのかも知れないが、逆に日本が紹介される時に、サシミ、テンプラ、着物にフジヤマだけのものでは、吾々にとってあまり気持ちの良いものではなからう。良い処紹介や珍しいもの紹介も結構であるが、同時に普通の日常生活、その国のもつ色々な側面も正しく認識されなければ、相互の理解も深まらないであろう。

タイに2年、フランスに1年程長期に滞在したことがある。そして今尚、この国々が好きであり、バンコクやパリの都に深い愛着を成じている。それは仕事上のことにしろ一般のことにしろ、その国の人々と議論をし合い、云うべきことは云い、聞くべきことは聞いた、という一つの難関を突破したからこそ、所謂観光的表面のものを超えて、相互に理解が深まったからに他ならない。

たとえば、パリは日本人に共通の憧れの都であろう。フ

ランス映画で見たパリ、本で読んでイメージしたパリ、華やかなシャンゼリゼ通りとフランス料理、郊外のロマンチックなお城等、夢見るパリは絵葉書のように吾々を待っている。しかし暫くの間滞在し、色々な人々と接触するうちに、再確認する良い処と共に、商業上の掛引きの狡猾さや、外国人と思ってつけ込む様な場合に出会う内に、矢張り、同じ人間の住む世界であることが見えて来て、人間臭いパリが更に身近かなものになったという経験がある。勿論それはバンコクでも同じである。

今、韓国で同じ様な経験をしている様に思う。日常的には、今尚失はれない儒教の精神から、目上の人や、老人に畏敬の念を持つことや、地下鉄等での親切さ等々、日本で失はれつつある美德に感心する反面、人の多い処で、後ろからつきとばされることは茶飯事、人を容易に信用しない上、決して自ら譲歩しない点など、その永い苦難の歴史から拓かれた防衛姿勢とはいえ、腹立たしさを感じることもしばしばであり、あまりにもヒステリックな誇り高さに時易することもある。勿論先方から見れば同様、吾々に対して厳しい見方をしているのも事実であるから、お互いの長所、欠点を見つめ合い理解してこそ友好もあるのである。

建築やインテリアの日本人の監理は非常に厳しい故に、これまでも高品質のものを造って来ることができたと言えよう。ある韓国人が日本に来た時「日本のマンホールの蓋は何故あんなに奇麗に造るのか？」と訊かれたことがある。指摘されるまで気が付かなかったのだが、確かに、そのスキ間の無さ、精度の高い仕上げは見事なものがある。その必要があるのかの論争は困るが、ある外国人の人達には異様に映るのかも知れない。今日本の設計事務所が韓国で監理をする時、その厳しきから意地悪をされていると考えるそうである。彼らには、所謂業界の常識として「ソデの下」が日常的である。「この習慣を無くさない限り高品質なものとはできないよ」と忠告申し上げるのであるが、その価値感すら、国によって変るといことも胆に銘じる必要がある。まさに郷に入らば郷に従え、というのがお互いを尊重し合うことになるのであろう。外国で仕事をする難しさが漸く分かって来たような気がしている昨今である。

堺の新製品フェア'88

堺市内で1年以内に開発(改良)した新製品を一堂に集めた「堺の新製品フェア'88」が、去る3月10日から15日まで、泉北のパンジョ広場で開催された。

このフェアは、堺市、堺商工会議所、堺市中小企業振興会が主催し、主催者委嘱の審査員9名により優秀製品選定審査委員会を組織して、デザイン、アイデア、機能、市場性から総合的に審査を行ない、各賞を選定した。

主たる賞について選考理由を述べると、

- 堺市長賞「エプロン 24自転車」㈱ワニ製作所——
画期的なU型フレームを採用。リム・スポークなどすべてブラックで統一し、タウンユースとしての自転車の新しい面を開拓したことが評価された。
 - 堺商工会議所会頭賞「ナイフ・和包丁 13点」堺刃物協同組合青年部——
古くから伝わる堺打刃物の技術と品質を基盤に、近代生活にマッチする新感覚のナイフ、包丁などを生み出したチャレンジ精神が、今後の奨励も含めて高く評価された。
 - 堺デザイン協会理事長賞「セラミックス刃定鉄」アルス刃物製造㈱——
セラミックスの硬さとハガネの鋭利さをドッキングさせ、シンプルなデザインとすぐれた機能が評価された。
 - 堺市中小企業振興会理事長賞「タウンゴルフステック・ボール」金山木材工業㈱——
家族で楽しめるゴルフのような遊具セットだが、あくまでも木材の良さを生かして、他の分野の製品をつくった意欲が評価された。
- このほか、優秀製品賞として8社の製品が選ばれたが、上記の4賞とほとんど優劣の差がなく、いずれも堺の製品にふさわしい、個性のある新製品であった。

(審査委員長 垣村三平)

春の文化・スポーツ催事

■堺市博物館の展示

- 春期特別陳列「和泉地方の仏像」 4月23日～5月22日
- 館藏品展—新収蔵品を中心に 5月28日～7月3日
- 館藏品展「泉州の焼塩展」 7月6日～9月4日
- 地下ギャラリー「堺の農具展」 4月12日～9月25日

■大阪21世紀計画・春のイベント

- 大阪メカトロニクスフェア'88 5月13日～5月16日
インテックス大阪
- プラスエキスポ'88 響け!未来へ大空へ 5月15日
万博公園内自然公園一帯
- 郷土の歌人・与謝野品子リサイタル 5月28日
堺市民ホール
- 第5回上方花舞台 5月12日～5月17日国立文楽劇場
- ウォルトディズニー・ワールド・オン・アイス
8月13日～8月21日 大阪場ホール
- 岸和田城400年まつり サマーフェスティバル
8月20日～8月28日 岸和田城一帯
- シルクロード博 4月25日～10月24日 奈良公園一帯

会員ニュース

- 新しい会員を2名お迎えしました。
泉谷 茂さん(堺市浜寺諏訪森町東3-284〒592)と
八木 高光さん(高石市羽衣4丁目2-1-318〒592)
です。自己紹介は次号PROFILEでお願いいたしますが、
これで会員は46名となりました。
- SADA発展のために会員の増強をはかりたいと思います。
入会希望の方をご紹介下さい。事務局まで。

会報 SADA 8号
昭和63年3月31日

発行 堺デザイン協会

〒590 堺市北向日1-1-7 オカムラデザインプロ内TEL0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会

「近代建築」堺・泉南コース



1. ダイセル本社
2. 大和川染工所
3. 旧大阪織物会社跡
園アーチ門
4. 旧堺紡績所跡
4. 堺港水害慰霊塔
5. 旧堺灯台
6. 旧堺台場
7. 国枝医院
8. 阪東アルミ株式会社
9. 旧堺紡績会社モニュメント
10. 旧堺郵便局
11. 永泰隆建屋部
12. 堺の風車
13. 近江岸部
14. 新井織物部
15. 政田邸
16. 豊枝医院
17. 大阪府立三國ヶ丘高等学校
18. 田実王貯水池
19. 大阪刑務所
20. 浅香山佛院
21. 近畿相互銀行岸和田支店
22. 日本貯蓄信用組合
岸和田支店
23. 岸和田市立ちきり青年会館
24. 岸和田市立自民会館
25. 杉江龍康堂
26. 大阪府立岸和田高等学校
27. 社会福祉法人五通会
28. 旧岸和田村立尋常小学校校舎
29. 辻野邸

